

世界の頂点を極めた日本人

ニューズウィーク日本版

定価450円

Newsweek

世界を極めた

日本人

五輪メダルでは測れない

日本人の底力——

正統派のフロントランナーから

マニアックな記録保持者まで

異才・鬼才・天才の

発想力と原動力に迫る

夏季合併号

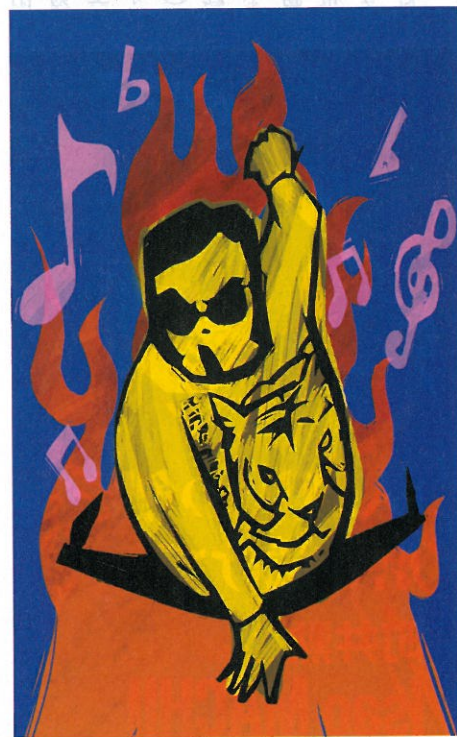
2012
8.15/22

2012年8月15日発行 毎週水曜日発行 八月八日発売
昭和六十二年四月十四日郵政省郵便物認可
〒100-0001 東京都千代田区千代田三丁目三番地

見えないギターで 弾く爆笑の調べ

大地洋輔 (エアギター)

Yosuke OCHI



右腕をぐるぐる回し、飛び跳ねるたびに虎のセーターからメタボ腹がぶりんとぞく。06年と07年の世界エアギター選手権で2連覇を果たした大地洋輔(40)のトレードマークだ。大地は持ち時間1分のうち最初の30秒、エアギターに一切触れない。その場にはいないドラムやベースに指示を出したり観客をあおったり。会場が温まった

ところでやつとギターを入れる。ほかの出場者は最初から全開で、すぐに自分の世界に没頭する。だが、大地の演奏は観客との一体感があってこそ。本職はお笑い芸人。会場の空気を読み、客を楽しませるのはお手の物だ。3連覇は逃したが、来年リベンジを狙うかも、と言う。「日本の虎」の復活が待ち遠しい。

中村美鈴



錯覚の不思議を 数学で解く

杉原厚吉 (不可能立体)

Kokichi SUGIHARA

を深く知ることにもつながる。

世界錯覚コンテスト優勝—
遊びのようだが、主催者はれつ
きとした神経学の国際学会だ。

実は人間の目には、この世界
は二次元にしか見えていない。
それに奥行を補っているのは脳
の働き。その脳が間違ふときに
錯覚は起こる。さまざまな錯覚
をつくり出すことは、脳の働き

杉原が2010年に優勝した
ときの作品は、高速道路が十字
に交差したような立体模型。あ
る方向からこの模型を見ると、
四方の端から転がした玉が交差
点に向かう上り坂を上っていく
ように見える。だがこれは杉原
がつくり出した錯覚。実際には、

道路はちゃんと下り坂だ。

専門は数理工学。特にコンピ
ューターによる図形処理の応用
に力を入れる。世界でも珍しい
「不可能立体(錯覚を起こさせ
る立体模型)」を作るようにな
ったのは、人間の目には不可能
と映るだまし絵の立体の中に
、実際作れるものがあるとコンピ
ューターに教えられたからだ。

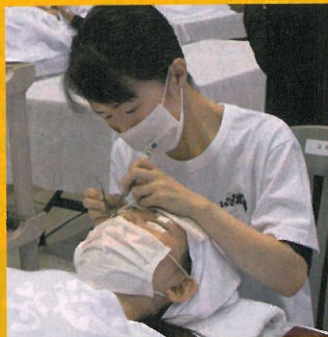
錯覚はまれな現象ではない。
上りと下りが逆に見える道路は
世界中にあるという。渋滞やス
ピード出し過ぎの原因にもなる
が、数理解理で錯覚の原因を解
明できれば、それを補正する側
壁のデザインなども導き出せる。
そして錯覚は、単純に面白い。
さまざまな錯覚作品を集めた明
治大学の研究室兼錯覚美術館は、
まさに視覚と脳のびっくり箱だ。

千葉香子



吉田孝子 (マツエク施術)

Takako YOSHIDA



まつげを彩るアーティスト

「マツエク」ことまつげエクステーションとは、地まつげ1本1本に人工まつげを装着し、ボリュームを出したり長さや延ばす技術。吉田孝子(33)は2010年にマツエク発祥の地、韓国で行われた世界大会で外国人初の総合優勝を果たした。

細い毛や短い毛、下向きの毛などバラバラの地まつげに、太さや長さ、カールの形などが異なる

数種類のエクステを使い分け、最終的に横から見たラインが滑らかで、かつ客のイメージどおり「パッチリと」「たれ目風に」「切れ長に」仕上げる。世界一の吉田の技術は、毎日練習台に向かい、2400本以上のエクステを装着したという努力のたまもの。女性の頼もしい味方だ。

小暮聡子